—いのち、くらし、平和が大事！—

日本共産党京都市議会議員

山本 陽子 活動ニュース

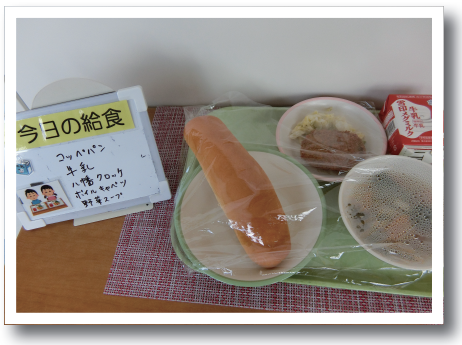
VOL.31　2018年2月18日号

連絡先　日本共産党山科区生活相談所　山科区西野大手先町8－8　☎595-8342

全員制の温かい給食を開始した八幡市の中学校給食

今年度５月から、京都市のお隣の八幡市でも、全員制の温かい中学校給食が始まりました。同市は平成18年から注文制の業者弁当（400円）を手配していましたが、1700人中10人弱しか食べてもらえず、「これでは、食べてほしい生徒に届かない」（教育委員会次長の弁）と決断に至ったそうです。小学校３校で中学校４校分の給食も一緒に作って配送しています（親子方式）。もちろん、調理室を増築し、調理員も増員です。やればできる！

視察当日は、名産のたけのこ竹炭のはいったオリジナルメニュー“クロッケ”がメインメニューでした。



全国平均88.4％のきっ食率（給食を食べる生徒の率）に対して、京都市は30.2％と大変低くなってます。京都市でも引き続き、議会で中学校給食の実現を求めていきます！　京都府にも支援を働きかけましょう！

憲法が理念—高槻温心寮（救護施設）

京都市では、ホームレスの一時保護所である中央保護所を廃止して、民間移管するとしています。

参考に、と高槻市の救護施設を視察しました。温心寮はその理念に憲法25条13条をかかげ、人としての尊厳を守る、と明記しています。生存権が保障される救護施設の住まいとはいかにあるべきかが議論され、その思いが随所に詰まった施設でした。すべて個室の200室は満室。施設を出て自立生活をする訓練のための住居も確保し、一人ひとりに寄り添った支援で年間２割の方が入れ替わっておられるそうです。ホームレスのみならず、住まいを奪われ、どこへも行くことができない、高齢者、障害者の方の最後のセーフティネット、住まいの受け皿となっていました。同じ施設でも、人の温かい心がこもった施設づくり、学ぶことがたくさんありました。

すばるホーム（京都市児童福祉センター一時保護所）を視察しました

京都市の児童一時保護所・すばるホーム（定員30人）は、２年前まではワンフロアの狭い空間に、虐待を受けた子どもや、親と離れて暮らす理由のある子どもたちが数人ずつ相部屋で過ごす劣悪な環境でした。

情緒障害児の入所施設青葉寮が民間移管された後、空いたフロアを男女別に改築。しかし、以前よりはましでも、いまだ相部屋を前提とする部屋数しかない状態です。一昨年、視察した奈良県の一時保護所は全室個室でした。京都市は施設環境整備が遅れています。

市は〈児童福祉センター〉〈地域リハビリテーションセンター〉〈こころの健康増進センター〉を一体化し、京都市立病院の北側に３施設が一体となった施設をつくる、と提案しています。今の施設の面積は確保する、としていますが、古い施設を基準にしても、それだけで問題がないとは言えません。所管委員会では、施策をいかに充実すべきか、医師や職員の増員などの検討はあと回しで、ハコだけをどうするか議論しても意味がない、計画は撤回して、実態をみるべきだ、と質疑しました。

ただ今、市民意見募集の期間となっています。ぜひ、みなさんのご意見をお寄せください。

Sさんに捧げる

私たちの家族が山科に越して来たとき、アパートの下の階に住んでおられたSさんが先日、お亡くなりになられました。

長女が生後数か月の頃から、可愛がっていただき、誕生日やクリスマス、進学時にはいつも子どもたちにプレゼントを贈っていただきました。子どもたちも成長に応じて、絵や工作をプレゼントしたり、お手紙を書いたり、Sさんは元気なときには生活発表会や運動会にも来てくださいました。こちらは実の祖父母は遠隔地に住み、Sさんのほうは身内のお孫さんは身近におられず、お互い血はつながらなくても、慈しみ合う関係を築いてきました。身内ではなくても温かい絆を感じることができたと、Sさんには本当に感謝をしています。

亡くなられる前日に家族でお見舞いができました。子どもたちもSさんのことを忘れません。

Sさんは子どもたちの成長がみられる、このコラムのことを、いつも楽しみにしていただいていました。

感謝と共に、心からご冥福をお祈りいたします。